

## 東日本大震災津波伝承館の令和元年度における事業及び今後の方向性について

	【事業区分】	【目的】	【令和元年度の事業（案）】	【今後の方向性（案）】
教訓の 伝承  復興の姿 の発信  感謝の 発信	展示事業	将来の震災・津波災害から自分の命を守るための効果的な学びの場となり続けるよう展示内容を計画的に更新	① 常設展示の更新及び解説員による分かりやすい解説の実施 ・解説員研修の実施（4～9月：震災津波及び災害救助・復旧復興等の取組、展示解説、接遇、避難誘導等） ② 企画展示の実施（2回） 第1回「3.11 伝承ロードへ誘う」（10/6～11/15、12/中旬～1/中旬） 第2回「大震災津波から9年（仮称）」（2/中旬～3/中旬）	ア 解説員の団体対応等を通じたノウハウを蓄積・共有し、展示解説の向上を図る。 イ 企画展示については令和2年度以降、年4回開催を予定
	教育・普及事業	子どもから大人まで幅広い層のニーズに応じた学習プログラムを提供するとともに、震災伝承に関わる人材を育成	③ 利用者層に応じた学習プログラムの作成・実施 ・小中学生向け学習教材「震災伝承ノート」の作成及び施設見学時の活用 ④ セミナールームを活用した学習講座、語り部の講話等 ・企画展示のテーマに合わせて、セミナールームを活用したイベントや講座等を企画・実施	ウ 教育委員会と連携し、復興教育に係る学習プログラムの充実を図る。 エ 震災伝承に取り組む多様な主体と連携し、セミナールームを活用した学習講座等を実施
	広報宣伝事業	国内外からの誘客促進とともに、震災の伝承及び復興と感謝の発信に係る情報を大学等とも連携しつつ発信	⑤ 情報発信（ホームページ、SNS等） ・SNSによる情報発信（5月～）※1、専用ホームページ開設（7月26日） ・震災語り部ガイドの実体験や伝承の取組をホームページで紹介 ⑥ その他誘客促進 ・道の駅高田松原と合同のポスター作成、都営地下鉄広告、リーフレット作成 ※2 ・三陸防災復興プロジェクト2019及びラグビーワールドカップ2019 <sup>TM</sup> と連携した情報発信（PV会場等でのチラシ配布、ガイドブック掲載） ・県観光課、学校調整課等と連携した旅行事業者、学校等向け周知 ・パブリシティ実施 ※3	オ ホームページにおいて、県復興局が年度内に作成予定の「復興の取組と教訓を踏まえた提言集（仮称）」を発信 カ 大学における学術的な論文や各種催し等について、連携して情報発信
連携事業	展示事業、教育・普及事業及び広報宣伝事業の内容を充実・発展させるため、大学、類似施設等との連携を推進	⑦ 県内市町村、岩手大学（陸前高田グローバルキャンパスを含む。）、東北大学、岩手県立大学と連携した事業・取組の企画・実施 ・海外博物館と連携（インドネシア・アチェ津波博物館、ハワイ太平洋津波博物館） ・国内の地震津波等の展示施設等と連携 ⑧ 県内及び被災4県の震災伝承施設群のネットワーク化 ・震災伝承ネットワーク協議会（国、被災4県及び仙台市で構成）及び（一社）3.11 伝承ロード推進機構（8月設立）の取組と連携	ク 国内外の防災力向上に貢献するため、市町村、大学、被災4県の伝承施設及び国内類似施設に加え、海外の津波博物館との連携を引き続き推進 キ 震災伝承ネットワーク協議会及び3.11 伝承ロード推進機構の取組と引き続き連携	

※1 Twitterによる情報発信（10/10時点）  
 フォロワー数：521件  
 ツイート数：436件

## ※2 印刷物の作成・配布等

- 1 ポスター（200部）  
 県内各道の駅、三陸鉄道各駅、IGR主要駅、伝承館国内類似施設、県内各大学、沿岸南部教育事務所管内中学校、高校等
- 2 都営地下鉄駅広告掲示  
 ア 都営地下鉄駅貼り広告（9/6～19）：主要10駅（都営三田線日比谷駅他）  
 イ 中吊り広告（9/11～24）：都営地下鉄4線全車両（2,840枚）
- 3 伝承館リーフレット作成（100,000部）  
 9月末時点20,000部配布済（来館者、県関係各課）

## ※3 メディアによる報道等

- 1 9/17報道向け内覧会の報道  
 テレビ：5社、新聞：10社、その他：2社
- 2 開館日当日の報道  
 テレビ5社、新聞多数
- 3 来館者10,000人達成時の報道  
 テレビ：3社、新聞：3社
- 4 その他  
 ア 伝承館からの生中継（めんこいテレビ：9/23）  
 イ 伝承館の特集番組（IBC：9/28）